

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0991100025 | | |
| 法人名 | 有限会社マイホームコーナ | | |
| 事業所名 | グループホーム来夢 | | |
| 所在地 | 矢板市石関1317-3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年8月28日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年3月8日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 |
| 訪問調査日 | 平成28年10月5日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様個人の尊厳や自由、選択等を尊重し、安心・安全で生き生きと笑顔のある日々が送れるよう支援しております。また、畑の世話や日中活動などご利用者様の残存機能活性化をお手伝いし、御家族様にも安心とゆとりを提供していくと共に、自分自身が受けたいと思うケアの提供をしております。

当事業所は市南部の自然に恵まれた場所に在り、閑静で落ち着いて暮らせる環境が整っている。庭には菜園があり農作業を希望する利用者が季節の野菜作りをしており、収穫した食材を使った食事を楽しんでいる。職員は運営の基本である法人理念を理解し、さらに具体化した目標の基に利用者には家庭的な雰囲気の中で暖かく接し、楽しく安心して暮らせるよう支援に努めている。また、日々の生活の中でコミュニケーションを図り利用者の思いや意向の把握に努め、趣味等を楽しむことができるよう個々に合わせた支援をしている。自治会の行事やお祭り等の地域行事に積極的に参加し、地元の商店の協力や近隣の住民から花などの差し入れがあったりと、地域との交流にも努めている。消防署の指導の下に避難訓練を実施し、職員は安全迅速な避難方法を学習するとともに地域住民の協力も得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「自分自身が受けたいケアとは何か」と念頭に置き、その人らしく暮らしていけるよう事業所独自の理念がある。又、朝夕の申し送り時に理念を唱和し、共有と啓発を図り、これに沿った支援を行っている。 | 利用者を尊重し、生活面での可能性を見い出しながらより質の高い支援を行うという法人の理念の基に、さらに具体化した目標を掲げ、管理者と職員が共有し実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入しており、地域の行事には可能な限り参加している。また、学童の子ども達や、近隣の方々とも挨拶や世間話をするなど、日常的に交流している。 | 自治会の行事や地域のお祭り等に積極的に参加している。地元の商店から協力があつたり、天王祭には子供神輿が事業所を訪れるなど、日頃から地域との交流が図られている。近隣の住民から花等の差し入れをもらうこともある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症についての情報などは回覧で回して頂き、また、お散歩を通じて情報を提供している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回運営推進会議を行い、運営・活動状況を報告し、参加者の助言や提案、意見を取り入れ、サービス向上に活かしている。 | 毎回固定メンバーの参加のもとに、利用者の状況報告や意見交換を行い、参加者からの助言や提案等はその後のサービス向上に活かしている。欠員による利用者確保の助言や市の福祉サービス等に関する意見が多く出されている。 | 議題に応じて消防や警察関係者、保健医療関係者など多方面からの参加を促し、幅広い意見等や地域とのつながりが得られるよう努め、今後のサービス向上に活かすよう期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の担当者とは必要に応じて相談や連絡を取り合い、グループホーム交流会や介護サービス事業者連絡協議会に参加し、情報等を受けサービスの質の向上につなげている。 | 市の担当者とは日頃から連絡を取り合い指導や情報提供を受けており、良好な協力関係が築かれている。運営推進会議のほかに市内のグループホームや介護サービス事業関係の会議等に市の担当者が参加し、福祉情報を得ている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | マニュアルを整備し、内部研修にて身体拘束を学び意識付けを行い、身体拘束が無いよう細心の注意を払っている。玄関のドアは日中は開錠、し安全に配慮しながら自由に入りが出来るようにしている。 | 身体拘束をしないケアのマニュアルが整備され、研修会への参加や内部での勉強会により周知を図っている。職員は身体拘束について良く理解し、特に言葉づかいや声かけについて細心の注意を払い支援に努めている。玄関は日中は施錠せず職員が安全面に配慮しながら見守りにより対応している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 県高齢者虐待対応マニュアルを活用し、内部研修にて虐待の意識付けを行っている。日常のケアにおいて、身体的かつ精神的虐待が発生しないよう、細心の注意を払い虐待防止に努めている。 | | |

グループホーム来夢

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修に参加をする機会を設けたり、内部研修を行い知識の向上に努めている。また、市民後見人養成講座受講生を受け入れ学んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、本人と家族に十分な説明を行い、不安や疑問点をお聞きし、理解・納得を得ている。また、改定時には書面をもって説明し理解を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 御利用者様との日頃の会話を大切に、思いを聴き信頼関係構築に努めている。また、毎月ご家族に足を運んで頂き対話をする時間を設け、さらに施設行事の感謝祭など、意見や要望等など話しやすい環境づくりに努め運営に反映させている。 | 日常の会話を通じ利用者と信頼関係を築き本音が聞けるよう努めている。家族からは毎月の利用料の支払い時や感謝祭等の行事の際に、利用者の生活状況記録書を渡し意見や要望を聞き、運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月職員会議を設け、職員の意見を取り入れ、働きやすい職場づくりに努めている。また可能な限り職員の意見を反映させている。 | 毎月の職員会議や勉強会で職員の意見や提案を聞いている。また、日常の支援の中で代表者や管理者が職員の意見を聞いたり相談を受けたり、その後の運営に反映させている。ケアに関する意見や行事のアイデア等が多く出されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者自ら職場を視察し、また定期的に職員と面談する話し合いの場を設けている。日頃より職員と会話をするなどして、気持ち良く働く環境・条件づくりに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 必要に応じて育成可能な研修に参加している。また内部研修等でステップアップを図っている。職員各々が外部研修等の情報を持ち寄り、情報の共有を図り、研修参加を促している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 定期的に他グループホーム事業者との交流会を開催し、問題点や取り組みの情報を交換をし、サービスの向上に繋げている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 面談時には本人から不安な思いや困っている事、求めている事を傾聴し、入居後も担当者を中心に、信頼関係が築けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約時や面会時にお話を良く聞き、より良い関係がもてるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 問い合わせや見学時において本人の状態等を伺い、グループホームの対象者でなければ、本人に適していると思われる事業者や相談先を紹介している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 畑仕事、郷土料理、季節の行事やそれに伴う行事食などを教えて頂き、一緒に調理等を行っている。また昔のお話や行事、生活などをお聞きし、支え合う関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日頃より、気軽にお話ができる環境、雰囲気作りを心がけ、面会時には普段の様子を報告し、情報の共有に努めている。また困りごと等は相談し、家族の協力を得ながら、支援をしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域とのつながりを本人や家族等から確認し、入居後も関係の継続できるよう、家族の協力も得ながら支援に努めている。馴染みの知人が訪ねてきたり、家族と食事や外出、行きつけの床屋等本人の希望に合わせた支援を行っている。 | 本人や家族から確認した趣味や生きがい、人間関係及び地域とのつながり等の情報をもとに、入居後も関係継続できるよう支援している。友人や知人の面会は少なくなっているが、飲食店や墓参りなど、希望に合わせて外出を支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共同作業やレクリエーション活動を通して、より良い関係作りに努めている。また利用者同士お互いを心配したり、声掛け、助け合う姿も見うけられ、それを継続できるよう支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も、気軽に遊びに来て頂けるよう働きかけている。また必要に応じて家族の相談の方もうけている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時に家族等から利用者の生活等や趣味趣向等を確認するとともに、日々の会話や表情、仕種等から想いや意向を推し測りながら把握に努めている。 | 生活歴や家族からの情報等を参考にしながら、日常の会話や表情等から思いや意向の把握に努めている。入浴時の会話や昔の思い出話などから趣味などやりたいことを聞けることもある。代表者は職員に対して利用者の把握度確認を行っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居後、日々の会話の中から以前の生活の様子や家族の話をお聞きしケアに繋げている。また家族の面会時には生活状況などを報告しその都度お話を伺っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者一人ひとりの心身状態や本人の出来る事を把握し、その方に応じた生活が送れるよう支援をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族の面会時等に現況の様子やケアを報告し、意見やアドバイスを頂き、それらを担当者を中心としたカンファレンスで検討し介護計画を作成している。 | 面会時に本人の状況を家族に伝え意見や要望を確認している。出された意見等についてカンファレンスを行い、今後のケアのあり方等について検討し、6か月から1年単位で介護計画を作成している。状況の変化に応じ随時見直ししている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子を個別の介護記録に記入し、気づきや疑問点などを、申し送り時やスタッフ会議等で話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況、その都度の要望に応えられるよう支援に努めている。また急な外出や外泊、通院等にも柔軟に対応している。 | | |

グループホーム来夢

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアの方々と共に協力して支援している。また消防署の指導の下、定期的に避難訓練を実施し、近所の方に応援を依頼している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所としては協力医を設定しているが本人・家族の希望する医療機関を定期的に受診している。受診ノートや血圧記録ノートを作成し、医師との連携に努めている。 | 本人及び家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。受診時には生活状況記録を持参し、受診ノートや血圧記録ノートを作成し医療機関と共有の上連携を図っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 在職看護師を中心に毎日の健康管理、内服薬監理等を行っている。また必要に応じて協力医の指導、助言を受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は病院の担当者等と連絡を取り、情報交換や経過を確認し、必要に応じて家族と今後の方向性について話をしている。退院時には可能な限り家族同席のもと主治医より話を伺っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合や急変時の対応については契約時にも説明しており、グループホームとして「出来ること・出来ないこと」がある事を伝え、主治医と相談しながら支援をしている。終末期の対応は御家族と相談の上、協力を得て訪問看護等の医療との連携をとりながら支援に取り組んでいる。 | 重度化した場合等の基本指針を作成し、利用開始時に事業所の方針を説明し家族と共有している。利用者及び家族の意向を尊重し、状況変化に応じて協力医療や訪問看護等と連携しながら支援に取り組んでいる。今年、開設以来初めて看取りを経験している。 | 今後も看取りの可能性のあることを想定し、マニュアルの整備や学習による意識の向上を図り、さらなる支援の取り組みに期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的内部研修を行い、知識・技術の向上を図っているが職員によっては不安がある。普通救命講習1を職員に受講するよう促している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回消防署員立会いの下避難訓練を実施している。また近隣住民にも参加して頂き、万が一の際には協力して頂けるようお願いし同意を得ている。 | 消防署員立会いのもと、夜間想定を中心とした避難訓練を年2回実施している。訓練には近隣住民の参加があり、職員は避難経路の再確認や安全迅速な避難方法を学習している。緊急連絡網が整備され食料も備蓄されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人格の尊重やプライバシー確保の重要性、言葉かけや接遇等を、勉強会やカンファレンスの議題にし、必要に応じて対応の見直しを図っている。 | 利用者に対する言葉づかいや接し方は理念に基づくものであり、勉強会などにより周知し尊厳とプライバシーに配慮した支援に努めている。失禁時やトイレ誘導などの声かけに配慮し、「さん」付けで呼びかけ優しく話すこととしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員本位で事を進めるのではなく緊急時以外はどのような場合でも利用者本人の意向を確認している。利用者の目線に立って常に利用者様主体であるよう心掛けている。また利用者本人だけではなく、家族の希望も可能な限り取り入れるよう努めている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の会話の中から利用者様の想いや希望を汲みとり、職員の提案を交え、出来る限り個々のペースに合った過ごし方ができるよう支援をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的に近隣の理容師に来所して頂き、散髪を行っている。また利用者によっては家族の付き添いにて馴染みの理容店にも行かれている。日常の衣類も本人の要望を優先に、季節感や職員の助言を交えながらお洒落に着こなせるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節の食材や畑で収穫した野菜を取り入れ栄養バランスを考えながら調理している。利用者と共に食材の買いだしや調理・配膳をし、職員も一緒に会話を楽しみながら食事をしている。またうどんや団子作りなど皆で楽しめる工夫もしている。 | 利用者の希望を取り入れた献立を看護師が作成し、職員が調理している。食材は菜園で獲れた野菜や季節感のある物を使っている。利用者は買出しやテーブルふき等を手伝い、団子作りや外食も楽しみとなっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 日々の献立や食事量、水分摂取量を観察するとともに介護記録に記載している。また利用者一人ひとりの咀嚼や嚥下状態を確認、把握しその人に合った調理方法や介助方法で支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを実施している。個人で出来ない方は介助をし、出来る方でも自尊心を損ねないように配慮し見守りを行っている。また日々のリハビリ体操でも発声や嚥下体操を取り入れ、いつまでも自分の口で食事が摂れるよう支援している。 | | |

グループホーム来夢

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 各利用者の排泄パターンを記録・観察し、把握に努めている。支援を要する方に対しては、定期的に言葉かけやトイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らせるよう努めている。 | 利用者の排泄状況を観察・記録し排泄パターンを把握している。ほとんどの利用者がリハビリパンツを使用しているが、職員は日中の声かけや誘導によりトイレでの排泄を促し、半数は自発的にトイレで排泄できる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 消化の良い食材を取り入れ、適量の水分量の確保、運動を行い予防に努めている。便秘気味の方については主治医と話し合って頂き、便を柔らかくするお薬や、下剤の処方をお願いしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は1日おきに週3回が基本で一对一で支援している。農作業や汗をかいた時はその都度シャワーや入浴ができるよう、利用者の希望に合わせて柔軟に対応している。湯舟は檜風呂で冬はゆず湯やりんご湯など入浴を楽しめるよう努めている。 | 入浴日や時間帯の設定はしているが、利用者の希望や状況により柔軟な対応をしている。介助職員と一对一のためリラックスした雰囲気の中で思い出話などや本音が聞けることもある。季節によりゆず湯やりんご湯などで入浴が楽しめるようにしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は出来る限り身体を動かして頂けるように努め、夜間は安眠できる健康的な生活を送れるよう支援している。また個別に午睡にも対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員に対して定期的に内部研修を行い知識及び理解度の向上に努めている。また内服薬一覧表を作成し誰が、いつ、何を、内服したか分かるようにしている。病状に変化があれば家族を通じ主治医に報告をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人や家族から生活歴等を確認し、可能な限り本人の意向に沿った活動が出来るよう支援している。誕生日会や定期的なイベント、ドライブやプチ外出を計画し、楽しみや気分転換を図っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者の希望に応じ、花見や紅葉狩り、芝居見学等の遠出のほか、気候の良い日は近隣へプチ外出や散歩に出掛けている。また家族と相談しお盆や正月の帰省、墓参り、友人宅の訪問、外食など本人の希望に添えるよう努めている。 | 外出の年間計画を立て、季節に応じ初詣や花見、紅葉狩りや芝居見学などに出かけている。日常的に近隣を散歩したり公園に出かけたりしている。家族の協力のもと、お盆や正月の帰省や墓参り、友人宅への訪問、買い物や外食など、利用者の希望に合わせて支援している。 | |

グループホーム来夢

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人及び家族と相談・協議の上、現金を所持するかどうかを判断している。現在はホームで預かり、管理されている利用者様はおられる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 特に本人や家族から規制がなければ自由にして頂いている。手紙や電話等で家族とやり取りされているお方がおられる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 活動状況やイベント毎の写真や利用者と季節の飾りを作成し壁面に飾っている。大きな窓からは外の景色が見渡せ、鉢植えの植物も栽培し年間を通じて季節の草花が楽しめるなど、自然を感じられるよう工夫している。畳の部屋では昼寝やこたつでの団欒もでき明るく清潔で居心地のいい空間となっている。 | 食堂ホールの壁面には利用者の写真や作品の他、季節の飾り物や植物等が置かれ生活感や季節感が感じられる。施設内の共用空間は明るく清潔で室温等も適度に配慮されており、ソファや畳の部屋で昼寝したりくつろいだりできる居心地良い空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 対人関係や歩行状態、本人の意向を踏まえ席を決めているが、食事以外は自由に席を使って頂いている。利用者によりテレビを観たり、新聞を読んだり、談話や工作・裁縫等をされたりと用途は様々である。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は全室南向きで明るく清潔な空間となっている。使い慣れた筆筒や布団、ベッドなど家具の持ち込みに対応している。飾りつけや家具の配置など、本人が居心地の良い環境となるよう空間づくりに配慮している。 | 居室はすべて南向きで明るく、エアコンや広いクローゼットが備え付けられている。家具類や日用品等は使い慣れた物を持ち込むよう支援している。各居室とも飾り物等は少なくシンプルで落ち着いた雰囲気となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内はバリアフリー仕様となっており、杖歩行者や車椅子使用者に安全に移動できるようになっている。ホール内や廊下には歩行の妨げになるような物を置かないよう配慮している。 | | |